

鉄灯籠

高さが 3 メートル近くあるこの大きな鉄灯籠は、宝物館の入り口で訪問者を迎えている。重要文化財に指定されているこの灯籠は、豊臣秀吉（1537-1598）の没後 2 周年の命日に、秀吉追悼の記念に神社に寄贈された。提灯の火鉢部分（灯明袋）には稲妻や太陽と月の透し彫りが施されている。中央の支柱に透し彫りされた雲と龍の文様から、この灯籠は雲龍灯籠と名付けられている。そのデザインの一部は今では見えなくなっているが、灯籠の巨大な形状と鉄の鈍い光沢には独特の洗練性がある。鉄灯籠に制作者の名前が刻まれることは非常に珍しいのだが、この灯籠には辻与次郎（16 世紀末から 17 世紀初頭に活躍）の名が刻まれている。辻は厳格な茶の湯を発展させた茶人千利休（1522-1591）の茶釜を手がけたことで知られている。秀吉は与次郎に「天下一」の称号を与えた。日本一の権力者からそうに認められた与次郎であるから、秀吉を偲ぶための灯籠もさぞ心をこめて作ったことだろう。